

防災対策には女性の視点が大切です！

東日本大震災をはじめとした大規模災害時には、女性が避難生活を送る上での様々な課題が浮き彫りとなりました。

- ・着替えや授乳などのプライバシーに配慮した生活環境の確保
- ・衛生用品等の生活必需品の不足や配布方法
- ・避難所内での防犯・安全対策（入浴設備や仮設トイレ等）
- ・「女性だから」という理由で食事の準備や掃除等を割り振られる

このような問題を解決するためには、避難所運営委員会の役員等について、女性の参画・登用を進めていただくほか、避難所の意思決定などの場に、女性も積極的に関わることが大切です。

また、自主防災組織等の役員についても女性の参画・登用を進め、地域の防災訓練に多くの女性の方に参加いただくことで、日頃からの女性の視点を取り込んだ防災対策を進めることも大切です。

<避難生活における女性の視点の例>

- ① 指定避難所では、開設当初から授乳や着替えができる専用のスペースを設けましょう。
- ② 仮設トイレの設置にあたっては女性専用トイレを用意し、また防犯上、安全・安心に配慮した場所に設置しましょう。
- ③ 女性用の洗濯物の干し場を確保しましょう。
- ④ 特定の活動（食事づくりや清掃等）が、性別や年齢等により役割が固定化することがないように、皆で共同して作業をしましょう。
- ⑤ 男女それぞれの責任者を定め、十分に意見交換をしましょう。
- ⑥ 女性専用の衛生用品等の生活必需品の配布は、女性が行うようにしましょう。
- ⑦ DVやセクシュアル・ハラスメントに対する相談窓口を設けましょう。

～災害発生時には、様々な人々が困難に直面するため、乳幼児、高齢者、障がい児者、セクシュアル・マイノリティの方、外国人など、様々な視点を取り込み、防災対策を進めていくことが大切です～



【お問い合わせ先】
藤沢市 防災安全部 危機管理課
0466-25-1111（内線2432）